

# 棋士の海外での活躍に期待

大和田囲碁同好会 成田 滋

10月30日に「仲邑菫女流棋聖、韓国棋院に移籍」に関する記者会見模様をYoutubeで見ました。韓国棋院に移籍する事は「残念なことだ」というニュースが流れるなかで、彼女が「より高いレベルの環境で勉強することが今の私には必要だと思った。これまで以上に厳しい環境で、さらなる努力をしたい」という決意には溜飲が下がる思いでした。

私事ですが、自分の能力や経験を振り返るとき、飛躍しなければならないと決意する時がありました。海外における学問分野の展開や発展を知ると、それに追いつき追いつきたいという気分になるものです。留学して先端的な研究に触れ、専門とする分野の人から指導を受けたいと思ったものです。そこから奨学資金を探し始めてようやく適ったのが1977年のことです。国際ロータリー財団から資金をいただくことができ、ウィスコンシン大学で研究できることになりました。そして幾多の「目から鱗が落ちる」貴重な経験をしたものです。

野球界で大谷翔平がアメリカの大リーグへ行って活躍して、サッカー界でも、欧州などの強いリーグに行って戦う選手は最近どんどん増えています。彼らはより高みを見つめて、挑戦し、その結果が日本のスポーツへの人気を高めスポーツ人口を増やしています。韓国移籍のニュースを「残念なこと」ととらえるのではなく、日本の囲碁界のレベルアップのためには囲碁の先進地の韓国で鍛えていこうという意欲のある棋士をどしどし海外に送り出すべきなのです。

先日の記者会見で、仲邑さんなぜ自分は韓国に行くことを選んだのかのコメントは、重要だと思われま。3歳で囲碁を覚え5歳の時に早くも関西



アマ女流囲碁 B クラス名人戦で優勝したことは、今度の韓国棋院への移籍の理由に関連しています。つまり、小さい時から周りの環境がいかに違うか、強い人がいるかに気づき、もっと強くなりたいという願望を育てていったと思うのです。

翻って、我が国の学問分野でもさまざまな指摘を受けています。生命科学、創薬研究、再生・細胞医療・遺伝子治療などでは、学際的な研究が進んでいます。これも異なる国々の研究者が協働するからです。蛸壺のような世界では、物事の発展は期待できません。仲邑 さんからは、海外へ飛び出して、自分を試し新しいことを学ぼうという気概を持っていることが伝わります。「いつか日本に戻る」というような姑息な考えではなく、自分の個性や能力が発揮できる場所を選ぶことが大事です。刺激が多く競争が激しい世界は囲碁でも科学でも人間の探求心を深め、よりよい進歩をもたらしていくはずです。

(2023年10月31日)